船舶事故調査報告書

平成２１年１０月１５日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決
委　員　長　　後　藤　昇　弘
委　　員　　楠　木　行　雄
委　　員　　横　山　鐵　男（部会長）
委　　員　　山　本　哲　也
委　　員　　根　本　美　奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成２１年４月２６日　０９時～１１時０５分（船内時刻、以下同じ。）ごろ）
発生場所	インド洋中部（赤道付近）の漁場 （概位　北緯３°４０．０′　東経６５°５８．０′）
事故調査の経過	平成２１年６月１０日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか２人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 Ｌ×Ｂ×Ｄ、船質 機関、出力、進水等	 漁船　第五十一健勝（けんかつ）丸、４３４トン １３００２９、健勝漁業有限会社 ４９．９０ｍ(Lr)×８．８０ｍ×３．８４ｍ、鋼 ディーゼル機関、７３５kW、平成２年６月１４日
乗組員等に関する情報	船長　男性　５９歳 三級海技士（航海） 免　許　年　月　日　昭和６１年１月１３日 免 状 交 付 年 月 日　平成１７年６月２０日 免状有効期間満了日　平成２２年６月１９日 機関長　男性　６２歳 三級海技士（機関）（機関限定） 免　許　年　月　日　昭和４５年４月６日 免 状 交 付 年 月 日　平成１７年１月２５日 免状有効期間満了日　平成２２年２月４日
死傷者等	死亡　１人（機関長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長ほか28人が乗り組み、平成20年7月、シンガポール港を出港後、モルディヴ共和国200海里内のインド洋でまぐろ延縄漁に従事していた。 平成２１年４月２６日朝、投縄作業中、０９時ごろ、機関長は、船首甲板後部の凍結準備室出入口ドアの補修作業を行っていたが、１１時０５分ごろ、同ドア前の甲板上に、右手に電気溶接用ホルダーを持ち、溶接棒が右脇の下に接触した状態で仰向けに倒れているのが発見された。 機関長は、乗組員の3時間に及ぶ心臓マッサージの効なく、心肺停止の状態から蘇生に至らず、搬送されたモルディヴ共和国首都マレの病院において死亡が確認された。

<table>
<tr><td>気象・海象</td><td colspan="2">気象：天気　快晴、風　無風
海象：穏やか
特記事項：冷房中の操舵室の温度は３１．５℃</td></tr>
<tr><td>その他の事項</td><td colspan="2">機関長は、多汗体質であった。事故発見時、瞳孔が開き、身体が紫色に変色しており、右腕と右脇下の２箇所に感電火傷痕があった。
事故時、機関長は半袖シャツを着用し、全身が汗で濡れていた。
凍結準備室前は、ドア周辺が低温のため広範囲に濡れていた。
本船は、乗組員構成が、日本人の船長と機関長のほか、外国人２７人の計２９人で、船舶安全法による最大搭載人員（23人）を超えた人数が乗り組んでいた。また、船舶職員及び小型船舶操縦者法の乗組み基準に定められた乗組員（船長、一等航海士、二等航海士、機関長及び一等機関士）については、船長及び機関長の配乗以外は配乗基準を満たしていなかった。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">分析</td><td>乗組員等の関与</td><td>不明</td></tr>
<tr><td>船体・機関等の関与</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>気象・海象の関与</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>判明した事項の解析</td><td>機関長は、凍結準備室ドアの下部ヒンジを取り替えるためかがんで電気溶接作業中、溶接棒が誤って右脇に触れ、感電したものと考えられる。
機関長の体が汗で濡れていたうえ、凍結準備室のドア前が濡れていたため、船体への感電回路が形成されたものと考えられるが、感電するに至った経過は、明らかにすることができなかった。</td></tr>
<tr><td>原因</td><td colspan="2">本事故は、本船が操業中、船首甲板後部において、機関長が電気溶接機で凍結準備室ドアの補修中、溶接棒が体に触れて感電したため、発生したものと考えられる。</td></tr>
</table>